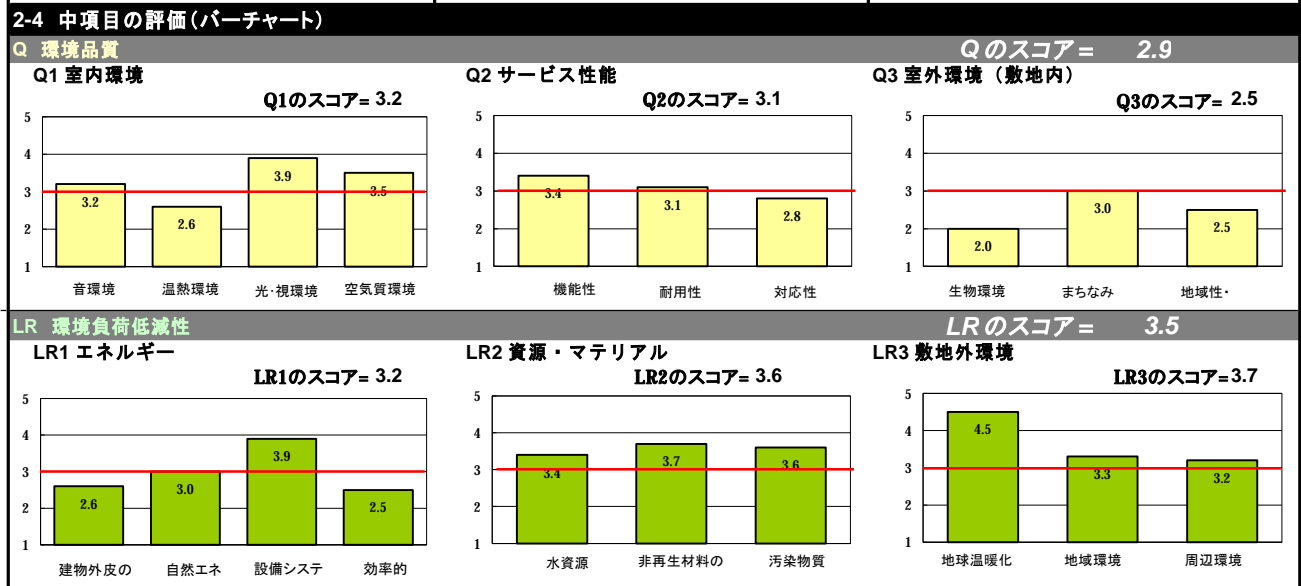
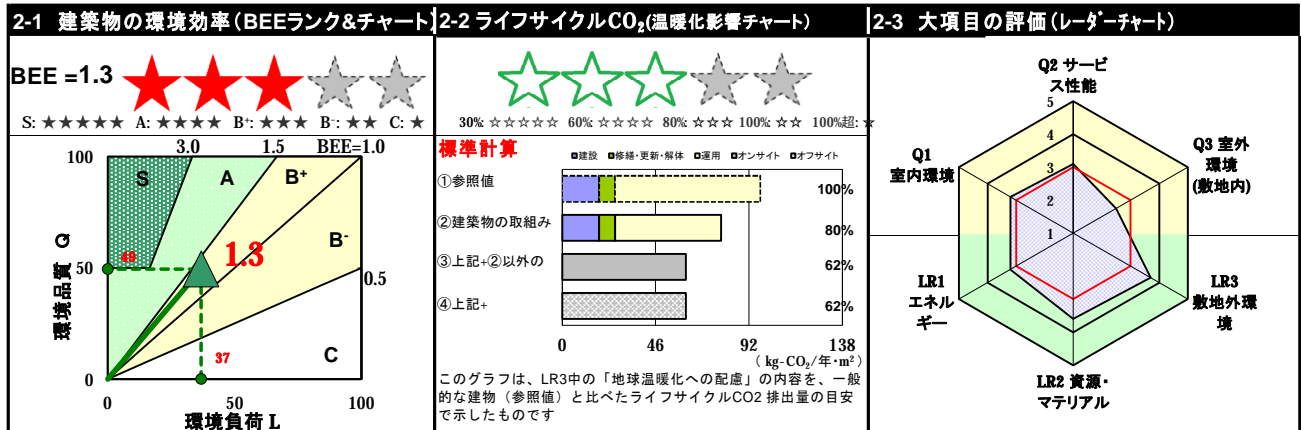


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪トヨペット貝塚店建替工事	階数	地上2F
建設地	大阪府貝塚市地蔵堂	構造	S造
用途地域	準工業地域 第一種住居地域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2025年11月4日
敷地面積	7,440 m ²	作成者	株式会社奥村組西日本支社一
建築面積	2,928 m ²	確認日	2025年11月4日
延床面積	3,297 m ²	確認者	株式会社奥村組西日本支社一級建築士事務所 草田友厚



3 設計上の配慮事項		
総合 敷地内に空き地を50%以上確保し、前面道路側に対して開放的な部分を多く設けることによって風の通り道を確保している。隣地境界部に中高木や芝生の緑地帯を設けるなど周辺環境に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 ショールーム等、建物の主要な室には自然採光を使用することで、照明不可の低減に努めた。	Q2 サービス性能 ケーブルラック配線として維持管理のし易い計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 中高木や芝生を設けることにより地表面温度の上昇を抑制している。
LR1 エネルギー 効率の良いLED照明を採用した。	LR2 資源・マテリアル 床材はOAフロア等再利用できるユニット部材を用いていることに加え、壁材には一部リサイクル材を使用したマテリアルを採用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を低く抑えた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		大阪トヨペット貝塚店建替工事							
建設地		大阪府貝塚市地蔵堂							
用途／区分		工場 物販店							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B+	
①	CO2削減							5	
②	みどり・ヒート アイランド対策							3	
③	断熱性能							3	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分						評価対象外	
④	エネルギー消費性能							4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分						評価対象外 3	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					4.5	5	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					2.6	3	
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.4	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項				
特に配慮した事項									